



▲同団体のメンバーから“せんだご”作りを教わる児童



▲“せんだご汁”を食べる参加者

## 富津小学校で“せんだご汁”作り 河浦

### ふるさとの味をいつまでも忘れないで

今年3月に閉校した富津小学校で3月8日、同校最後の児童23人と地元の団体・NPO南風屋が、富津地区に伝わる郷土料理“せんだご汁”を作りました。

これはNPO南風屋が、児童にふるさとの味をいつまでも忘れないでほしいと企画したもので、“せんだご”とは、地元ではいしんからいもと呼んでいるジャガイモをすりおろした絞り汁から取ったでんぷんと、その絞りかすで作っただんごのこと。

この日児童たちは、同団体の手ほどきを受けながら、だんごをこねたり、まるめたりする作業などを実施。その後、できあがったせんだご汁を参加者全員で食べ、子どもたちは「初めて作ったけどおいしくできて良かった」と笑顔で話していました。

## 下津浦ひな人形展 有明

### 年に一度の晴れ舞台に“ニッコリ”

2月13日から3月2日まで、「下津浦ひな人形展」が下津浦公民館・迫分館で開かれました。

これは下津浦地区振興会が、“桃の節句”にあわせて同地区の各家庭に保管されているひな人形の提供を受けて開催しているもので、今回で2回目。会場には、段飾りやつるしびななど色とりどりのひな人形を約200体展示。2月29日には浦和保育所の園児ら16人が訪れ、会場いっぱい飾られたひな人形を「うわあーきれい」と歓声をあげながら眺めていました。



▲段飾りのひな人形を眺める保育園児



▲笑顔で区内を歩く参加者

## 下田南ウォーキング大会 天草

### 春の景色を楽しみながら歩を進める

3月11日、「下田南ウォーキング大会」が開かれ、下田南地区内を散策する“はりきり(4.2km)”と“ゆったり(3km)”のコースに、地区内外から64人が参加しました。これは同地区振興会が、地元住民の親睦を深めようと毎年開催しているもの。この日は、東日本大震災から1年を迎える日ということで、まず参加者全員で黙とうを実施し、大会がスタート。その後参加者は、田園に咲く菜の花など春の景色を楽しみながら、思いおまいのペースで歩いていました。

## 2月19日に牛深町で各種イベントを実施 牛深

### 牛深が大にぎわい!

雪がちらつくほどの寒さを見せた2月19日、牛深町のうしぶか海彩館や牛深ハイヤ大橋横芝生広場で、さまざまな催しが開催されました。“みなとオアシス天草牛深”の登録を記念し、牛深の食をテーマに開かれた「うしぶか海食祭2012」では、新鮮な魚介類などを使った料理がずらりと並び、来場者は牛深ならではのグルメを堪能していました。

また、「牛深ハイヤ踊り創作コンテスト」を初めて実施。出場した8団体80人は、ハイヤ節のリズムに合わせて斬新なハイヤ踊りをそれぞれ披露し、会場は大いに盛り上がっていました。

このほか、遠見山すいせん公園のスイセン約45万本が見ごろを迎える時季に毎年開かれている「すいせん祭り」、毎月第3日曜日に催されている「牛深まるごと朝市」も行われ、多くの来場者でにぎわいを見せていました。



▲「うしぶか海食祭2012」で料理を買い求める来場者



▲「牛深ハイヤ踊り創作コンテスト」で優勝した地元の“スターダンス”の踊り

## “はまぼう”のコサージュを小・中学校の卒業生に贈呈 新和

### 市の花を卒業のはなむけに

新和まちづくり協議会では、卒業を迎える新和小・中学校の児童・生徒に、市の花“はまぼう”のコサージュ(花飾り)を贈りました。これは同協議会が、町内にある日本最大級のはまぼうの群生地になんで、この群生地のように大きく成長してほしいと、地元の手芸愛好会・宮地浦仲良しグループに依頼して製作したものです。

3月11日には同中学校の卒業式が行われ、卒業生26人がコサージュを身に付けて出席。はまぼうの花言葉である「楽しい思い出」とともに、学び舎を巣立ちました。



▲コサージュを身に付ける卒業生たち



▲説明を記した看板を設置する参加者

## 御領地区の文化財に看板を設置 五和

### 郷土の歴史や文化を後世へつなぐために

2月27日、御領地区に点在している文化財25カ所に、説明看板が設置されました。これは、御領まちづくり振興会や郷土史の研究をしている五和町史談会、御領・大島公民館などが、同地区内で実施しているまち歩きツアーや史跡巡りの充実を目的に製作したものです。

この日は、同会の役員など10人が参加し、県産の間伐材などを使用して作られた看板の設置作業を実施。参加者は、「すばらしい看板ができあがった。大切な文化財を後世に引き継ぐことができれば」と話していました。